

カウンセリングサービス

・学生の成長とは

それぞれの学生は、疎外感を感じることなく、一人ひとりがどこかのグループに所属している。学生たちは、人々や環境から影響を受けている。また学生は、人々、すなわち家族や友人などから影響を相互に受けている。学生がおり、そして彼、彼女の健康状態がある。そして成功していくための要素が中心にある。次に大切なものは、心理面である。体が健康であってもストレスを受けて問題を生じて心理面で影響を受ける。次に家族である。学生は、NTID におり、そのうちの何人かは家族と離れて暮らしている。しかし家族からの影響を受けている。20 年以上前とくらべ大きな変化は、技術の変化がある。ページャや e-mail、ポケベル、コンピュータを使ってコミュニケーションを行っている。遠くはなれていてもこうした媒体によって家族と連絡をとり、そのため家族の影響は大きい。とりわけ 18 歳から 22 歳の学生は、友人関係を主としている。学生は、家族とはなれて暮らしているため、より関係を友人に求めていく。次に学生は、それぞれのやり方で教員との関係を築きあげていく。学生によっては、ラボやクラスで、一人の先生一緒に 3 時間も 4 時間も何時間もいることで、いろいろな話をするすることで、より強い関係を作っていく。最後に、カルチュラルポリティカルと言い、学生たちをとりまく町や国、州、世界と学生たちの関係となる。すなわち、個々人は、いろいろなグループに所属していき、身体的なもの、認知的なもの、そしてだんだん世界にひろがっていくということである。しかし、学生の中で問題となることがある。

・カウンセリングモデルと理論

1. カウンセリングとゴール

ここでは、学生の内省的な心理面の、すなわち学生が内に秘めている問題に関して、その学生が育ってきた環境、バックグラウンドについて理解するということが大事である。それぞれのステージにおいて、人格の発達に焦点をおいて学生の心理面プロセスを話していく。内面の問題を解決していくためには、心の構造を知ることが大切である。そこに重点をおく。このアプローチは長く時間がかかる。それは年単位である。残念なことにそれほど時間を多くとれない。こうしたアプローチは、学生にたいして有効に働いている。これは学生の思想、世界をどうみているのかに焦点をあてている。カウンセラーを通して自分のアイデンティティを確立したり、自分の行動、行動に悪いところがあれば直していったりする。例として、時間の管理、カウンセラーは学生にどう時間をコントロールしてい

ったらよいのかをアドバイスしたりする。カウンセラーは、学生に大学生活の成功をするためのスキルを教えていく。過去に関して理解していくことは特別必要はない。そしてこれまで話した3つの方法というのが、認知行動学の理論である。

2. 現実理論

これは、主に学生が自分自身をどのように受け入れていくのかを示している。そしてどのようにストレスを自分で扱っていくのかということを示している。そして自分自身の周りに選択の余地があるのかということである。これらに関して知っていくことである。

3. システマティックの理論

家族をシステムとしてとらえた理論で、個人と他人との関係を調べていく。こうした方法である。新入学生がこの大学に入ってきて問題のある人たちは、主に誰とも関係をしないで、自分一人で悩んでいることが多い。私たちの仕事は、こうした一人で寂しい思いをしている学生に、いろいろなことを教えていく。そうした仕事である。

4. 2つのカウンセリングモデルについて

最初のモデルは、アーサーチッカリングの考え方である。有名なリサーチを行っている人である。彼は、どのように学生がアイデンティティを確立していくのかの手順を調べた人である。彼は、アイデンティティを確立していくためには、7つのステージがあることを提示している。これらのステージは、すべての人が通るステージである。主にほとんどの学生たちは、この7つのステージを通ると言ってよい。

まず自信をつける。つまり自信をつけることは、技術をみつけることである。技術をみつけることで、自信をつけていくということになる。それが重要な過程である。

次に感情のコントロールをすることである。ある学生は、自分をコントロールできない。そのため、先生と会って感情を抑えることができないため、怒鳴ってしまったりする。彼の感情は正しいものである。ただ感情を抑えることができない場合などの問題がある。つまり、自分自身について知っていった自分自身をたよりにし、自分自身でやっていけるようになる過程である。つまり単なる独立心や自立心をつないでいくことだけでなく、時と場合によって人に頼ることもいいということを学ぶステージがある。つまり必ずしも自分自信でやっていかなければいけないということではなく、時と場合は人に頼る技術、たとえばチュータを頼ったり、自分一人でお金を稼ぐのではなく、奨学金をもらったりすることを学んでいくことが求められるステージがある。また成熟した人間関係を身につける。成熟した人間関係を身につけ、自分自信のアイデンティティを確立していく。すべてのステージは、アイデンティティ確立にとって大切である。しかし、このステージというのは、よりアイデンティティ確立にとって重要となる。聾学生には、様々なコミュニケーションを好む学生がいる。また人それぞれのバックグラウンドは違う。聾学生の中には、聾家族

をもっている。そうした人たちは、聾学校で育ってきている。そして聾学生の中には、親が聞こえる人でメインストリームの学校で行って育ってきている人もいる。つまり、人それぞれが異なるということは、人それぞれがアイデンティティをもっているということである。つまり自分の将来、目的に対して考え方を向上していく、そういうステージである。

最後のステージはいかに自分の環境に所属しているか、所属している文化に関係して向上させていくというステージである。

第2のモデルとして、キャリアディベロプメント、すなわち仕事などの成長に関わるモデルである。私たちのところに来る聾学生は、将来何をしたいのかわからない学生もいる。この理論は、ジョンフォーラムの理論である。この理論は4つの考え方を有している。その考え方は、6つのカテゴリーに振り分けられるとしている。たとえば、ある特定の職種に所属している人たちは、特殊な感情表現をもつ。職場によって、異なる感情表現をもっている。つまり環境が人の性格に与える影響というものがある。職場が個人に影響を与える。成功している人は、職場で自分の能力や自分の価値を見いだせる人である。ジョンフォーラムが出した答えというのは、もし人が環境とマッチしていると自分自身の価値を上げたりして、能力に自信をもって成功につながる。成功の意味は、ひとつの仕事をつづけ、そして仕事に対して満足感があり、そして仕事に一所懸命取り組むことができるというものである。

6つの性格のタイプがある。最初は、体を使ったタイプである。次は問題を解決するのが得意なタイプで科学者などは数学的なもので解決していく。3つめのタイプは、より芸術的な環境に置かれている人たちのようなタイプである。それらには、音楽的、ダンス、演劇、文学などの携わっている人たち、そして自己表現が豊かな人たちである。4つめのタイプは、社会的な面で人を助ける人の性格といったタイプである。たとえば、学校の教師やカウンセラー、ソーシャルワーカーなどの職業に携わっている人たちである。次は、エンタープライズというカテゴリーにあてはまる人たちで、会社でのリーダー的な役割をもつ性格のタイプである。たとえばセールスを行っている人たちであったりする。最後の2つはビジネス関係である、最後の性格は、コンベンショナルと言われるもので、リーダーを助けていく性格のタイプである。

ジョンフォーラムは、すべての職業は6のカテゴリーに入ると考えた。そして、それをもとにあるモデルを考えた。これが六角形でつながりがある。エンタープライズはビジネスに関係している。ビジネス関係は、コンベンションとつながっている。

NTIDは、この図を使っているいろいろな職業にふりわけて学生に見せている。これを使って学生の興味ある職業分野をさがしている。たとえば、学生の筆記技術能力を知るのに、このような図を使って知ることができる。その他、コンピュータを使って能力を知ることができるようなものも用意している。能力に応じて様々なテストを行っている。コンピュータプログラムは、より深く知ることができるためコンピュータを使うのを好んでいる。学

生がテストを受けるとレポートが出てくる。そのレポートによって自分がどの部分に自分が所属しているのかを知ることができる。自分がどの職業に近いかわかることができる。自分の興味ある分野と自分の価値観というもので調べることができる。他に出たレポートをこのコンピュータにプログラムすることで、自分自身を分析でき、このコンピュータによって、異なる職業分野に振り分けられる。そして仕事を個人で調べることができるようになっている。そして、その仕事に必要な教育を調べることができる。そして実際に仕事をコンピュータで探すこともできる。とてもすごいプログラムである。

このようにカウンセリングでもさまざまな方法を使って提供している。ほとんどの場合1対1で行っている。グループで行うこともある。たとえば私たちがクラスに出向き、学生たちと話し合うこともある。たとえば夜や夕方に行われる特別授業でカウンセリングを行うこともある。また入学生のオリエンテーションに出向いて行って指導をしたり、カウンセリングを行ったりしている。その他、キャリアディシジョンメイキングというのがあり、自分の仕事を決定する、あるいは見つけだすときに行うワークショップがあり、こうしたワークショップがあるときに私たちが出向くこともある。事実、ここに来る学生は、半分の学生たちが自分の専攻分野を変える人たちである。このため彼らが専攻を変えたとき、これらのことを行って指導をしている。彼らが私たちの仕事である。学習に対するアドバイスやどのようなクラスをとっていったらいいのかのアドバイスをしたり、その他に将来どのような職業につきたいかの相談にのったりする。どのようなクラスをとっていったらいいのかを話し、このコースをとることで、自分が将来どのような職業についていけるのかのカウンセリングを行う。アカデミックデパートメントという学部とも近い関係にあり、共同作業のようにしてサービスを提供している、ウェブサイトをもっている。(ウェブサイト参照)

まず学生は、多くのメニューから、誰が自分のカウンセラーだろうというのと、このトピックからいろいろな情報(学生の姓名等)を入れることで、自分のカウンセラーを知ることができる。たとえばクリストファという名前を入力すると彼のカウンセラーがでてくる。新しく入学してくる学生は、ウェブサイトを見てもらい、そこをクリックすることで必要な情報を得ることができる。

質問

Q：カウンセラーはどのように決定されるのか。

A：アカデミックデパートメントがあり、そこで決める。学部の専攻によってその学部にあったカウンセラーが用意されている。たとえばアンが映像に関する専門が映像であれば、彼女がカウンセリングを担当する学生は、同じ学科の学生である。それぞれ学生は専攻学科が違うわけであるからビジネスであればビジネス専攻のカウンセラーである。カウンセリングもそれも関係する教員と関係をもっている。

Q：今のシステムは、聾学生だけではなく、RIT のすべての学生が使用するのと同じシステムか。

A：健聴学生のためのものであり、健聴学生は別のシステムである。

NTID にいる聾学生は、カウンセラーのサービスと学業上におけるアドバイスを与えるサービスがある。聞こえる学生には、大学側にカウンセラーが別にいる。他の7つの学部にある聾学生は、異なるアカデミックアドバイザーを受ける。

Q：オリエンテーションやフレッシュセミナなど、いろいろなワークショップなどで、学生にアドバイスを与えるということであるが、それはどのように行うのか。もう少し詳しく話して欲しい。

A：それには2つのコースがある。一つは、フレッシュマンセミナーで、新入学生は、必ずとるコースである。どんな風にして、大学生活をしていくのか。そして学業上で、どのようにすすめていくのかについて話をする。そして学内にあるリソースをどのようにアクセスしていくのかについても話をする。はじめの1年間は、いろいろな問題が発生するが、それに対して、どのように対処していくのかについても行う。他のクラスの学生との関係作りも提供している。

もう一つのコースは、学生のキャリアについて話すコースである。ここに来る学生は、どこの学科に所属したらいいのかわからない学生もいる。そういう学生たちのお手伝いをしたり、こういう人たちが、どの学科に属したらいいのかというお手伝いや、ずっとこの大学にいて変えたいと思っている人たちについても同じようにふさわしい学科を見つけるお手伝いをする。